

## 大通公園を望む窓辺から

### スマホ奮闘記

常任理事 笹本 洋一

携帯電話を初めて購入したのは、1994年ころである。留学先のアメリカで、車内からFM放送局に曲名を問い合わせているのを目にして、便利なものだと感心したものである。画面に数字とカタカナしか出ないが、不自由はなかった。ポケベルと携帯電話の二つを持ち歩くことに違和感はなく、そのうち、メールができるようになっても入力が面倒でほとんど使っていなかった。電話に困らないし、バッテリーがダメになると買い替え、使用方法に困ることはなかった。

さて、スマートフォンである。ちまたで言われるガラパゴス携帯からスマホに買い替えた。こいつは別物である。まず、電話の掛け方が分からない。キャッチホンはどうすればいいのか。車につなぐのはどうすればいいのか。電話帳がなかなか転送できない。どういうわけか知らないうちに通話状態になっている。写真の分類はできないのか。メールの添付文書はどこへ行った。バッテリーがすぐ無くなってしまう。ドコモの携帯から、ドコモのスマホに変えただけなのに、使い方が分からない。説明書は薄っぺらいものだけで、説明不足もはなはだしいと憤慨していた。

今年の正月に、スマホを買い替えた。スマホ3台目である。大手家電店で開店と同時に入店、一人目の客である。契約の説明に1時間、電話機の交換に1時間。家に持ち帰るが、今度はOSがバージョンアップしたため、データの丸ごと移行ができなくなった。マイクロSDカードにフォルダを作って、項目ごとに移行し、ホーム画面を変更し、必要なアプリをダウンロードし、不要なアプリを消去した。車と接続、電話帳の転送に苦勞して、ようやく使えるようになった。電話機を使うために、1日ばかりである。

家内が言う、「私もスマホに変えたい」と。聞こえないふりをした。

### 地域医療と老人パワー

理事 齋藤 孝次

昨年、釧路市から一通の手紙が届いた。何だろうと思いつくと、中には介護保険の被保険者証が入っていた。60歳の還暦のときは、職員に盛大なお祝いの会を開いていただき、友人より借りた真っ赤なケース、チャンチャンコ、帽子などで着飾り、赤いゴルフバッグなど赤づくめのお祝いをたくさんいただいた。しかし、まだまだゴルフも現役で“老人”という感じは持っていなかった。

自分が老人の仲間に入ると、必然的に付き合う先輩・仲間たちは老人の部類になってくる。そして、医師として少し仕事の内容を変えた先生たちが多い。私たちの病医院・介護施設などでは、この老人パワーに頼るところがとても大きい。

そしてなんとその人たちは、本当にactivityが高く、技術的にも若々しいものがある。熊本悦明名誉教授がanti-agingの活動を種々精力的に行っているが、私たちの法人では、この老人パワーがとても重要な位置を占めている。

自分の同期を見ると、まだまだ現役で活躍している人がたくさんいる。この老人パワーをとってしまおうと、日本の医療が成り立たない現実を見て、日本の平均寿命が延び高齢者が増えているが、それは日本に高齢医師の増加という現実を醸し出し、地域では大きな力となっていることに今更ながらもびっくりしている。まだまだ若いと思っていた私も介護保険被保険者となり、実際高齢者の仲間入りをしたが、昨年側湾症の手術を受け腰痛などあるも、今年は再度ゴルフにチャレンジしようと練習もせずに頭の中だけで空想している。

何はともあれ老人パワーに心より敬意を表したい。

